

令和6年度 自己評価及び学校関係者評価書

評価書は全部で4ページあります。表の右側2列「学校関係者評価」の覧にA～Dの4段階で評価をお願いします。記入が終わりましたら、お手数をおかけしますが<ご郵送>ください。

令和7年3月3日
札幌市立厚別東小学校

1 本年度の重点目標

響きあい 子どものよさや可能性が伸びる学校づくり

2 本年度重点項目

(1) 学ぶ力の育成 ①自分から学ぶ意欲をもつ ②確かな学力を身に付ける (分かる・できる・楽しい授業)	(3) 健やかな身体の育成 ①基本的な生活習慣を確立する ②体力の向上を図る
(2) 豊かな心の育成 ①自他を大切にすることを育てる ②規範意識を育てる	(4) 信頼される学校の創造 ①学年・学級経営の充実 ②家庭・地域とともに進める学校づくり

3 自己評価結果に対する学校関係者評価

達成状況はA(十分満足)・B(おおむね満足)・C(努力を要する)・D(一層努力を要する)の4段階

	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		達成状況	成果及び改善の方策	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
経営方針	学ぶ力の育成ができたか。 ①自分から学ぶ意欲をもつ ②確かな学力を身に付ける (分かる・できる・楽しい授業)	A	今年度は、昨年度まで取り組んできた「響き合い 学びが深まる授業づくり」の成果を生かすと共に、主体的に学ぶ学習場面を意識した授業づくりを実践での課題として、日常の授業実践に取り組んだ。また、職員間での研修の場を設け、職員の資質向上を目指すとともに、タブレット端末の有効な活用方法に関わる交流も継続してきた。今後も児童主体の学習となる授業づくりを目指した研修を積み重ねていく。	A	A
	豊かな心の育成はできたか。 ①自他を大切にすることを育てる ②規範意識を育てる	A	子ども一人一人が「自分が大切にされている」と実感できる学校づくりを目指した。「相互承認の感度」を高めるために、適宜、学級指導や「自立」と「共生」の場面を明確に伝えながら、自他を大切にすることを育ててきた。安心して学校生活を送るためにも多様性(みんな違う)を受け入れ、違いを認め合える支持的風土の醸成を図ってきた。今後も児童の心の声を見逃さないためにも、日常的な対話や、各学期に実施するアンケート等を通して、豊かな心を育てていく。	A	A
	健やかな身体の育成はできたか。 ①基本的な生活習慣を確立する ②体力の向上を図る	B	体力向上の取組としては、運動量を重視した体育の授業に取り組んだ。外部・地域人材を活用した「バスケットボール教室」「走り方教室」を実施した。また「森のグループ遊び」の「森グルチャレンジ」で長縄跳びを実施計画に入れていたことで、各学年で縄跳びの取組を体育の時間に計画的に取り組むことができた。また、全校での意識化を図る上で、マットや跳び箱の学習に取り組む時期を「週間」と位置付けたり、休み時間には、ドッジボールコートを設置したり、スノーチューブを取り入れたりすることで、年間を通じて体を動かす楽しさを感じている姿が多くみられた。スポーツテスト等の分析結果から得たデータを基に、伸ばすべき能力にフォーカスして指導内容や方法を改善していく。	A	A

<p>信頼される学校づくりを行うことができたか。</p> <p>①学年・学級経営の充実 ②家庭・地域とともに進める学校づくり</p>	<p>A</p> <p>学級・学年経営では、年度での学校教育の方針を保護者にも示し、知・徳・体のバランスがとれた教育課程を構築し実行してきた。</p> <p>学習参観・懇談を年間4回、個人懇談を年間2回、これに加え「運動会」「学習発表会」を実施し、毎月保護者・地域の方々が学校とかかわる時間を設けることができた。懇談等の時間は学年・学級の様子について話し合いを行い、個人懇談では、子どもたちの様子を共有し、家庭と連携して子どもたちを育てていく体制づくりを行った。</p> <p>外部講師や保護者ボランティア等の地域人材を有効に活用し、「開かれた学校」を目指した。また、「小中一貫した教育」の実現に向け、実務者会議、研修を実施してきた。地域との相互理解の場もさらに見出していきたい。</p>	<p>Å</p>	<p>Å</p>
--	--	----------	----------

学校関係者評価委員による意見

・知・徳・体のバランス、子ども一人一人のケア、地域との連携、小中一貫した教育等学校経営の大変さを感じます。子どもたちが学校は楽しいと感じられるよう、頑張っていたきたい。

・様々な対応が求められる教育現場において、今年度の重点項目をほぼ十分に達成されたことは高く評価できる。次年度も改善を加えながら取組を進めていくことを期待する。

・学習参観・懇談の回数を増加させるなど、職員の負担をいわず改善する姿勢は、子どもたちや保護者にも伝わっていると信じたい。

・森のコンサートやハンドベルなど、学校と保護者の交流、地域の交流を継続し、より良い学校づくりをしてほしい。

達成状況はA(十分満足)・B(おおむね満足)・C(努力を要する)・D(一層努力を要する)の4段階

評価項目	自己評価		学校関係者評価	
	達成状況	成果及び改善の方策	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
<p>本校2期4節の教育課程は、子どもの豊かな学びと思いやりの心を育む特色ある教育課程となっていたか。(年間計画を含む)</p>	<p>A</p>	<p>年間指導計画に基づいて、授業実践をおこなうことができた。各学年での実践を振り返り、次年度に引き継いでいきたい。また、次年度も引き続き自立的な活動の導入や行事の実施時期や内容の見直しを行うことで、児童の豊かな学びに向けて、効果的な教育課程を編成していきたい。</p>	<p>Å</p>	<p>Å</p>
<p>保護者・地域への情報発信の工夫がなされていたか。</p>	<p>A</p>	<p>紙ベースで学校だより、学年だより、学級だよりで、児童の様子を伝えると同時に、学校ホームページの「厚別東小ニュース」で、その週の子どもの学校の様子を紹介した。また、欠席時のお知らせや学級閉鎖、休校等、緊急のお知らせは「すぐー」を活用して情報発信してきた。これからは保護者の皆様・地域の皆様に必要な内容の情報発信をし、協働で子どもたちを見守っていく。</p>	<p>Å</p>	<p>Å</p>
<p>安全教育はしっかりと推進されていたか。(危機管理に対応した教育課程になっていたか)</p>	<p>A</p>	<p>避難訓練、不審者対応訓練等、危機管理に対応した取組を行った。また、警察署の協力による防犯教室、ネット(SNS)いじめ対策等の学習を実施した。次年度も児童の心と身体の安心安全のために、外部人材の協力を得ながら確実に指導を行っていく。</p>	<p>Å</p>	<p>Å</p>
<p>子どもの豊かな学びにつながるTT指導となっていたか。</p>	<p>A</p>	<p>今年度も2名の職員により、計画的に取り組むことができた。授業形態を工夫し、子どもたち一人一人の学びの充実につなげるために、個に応じた指導を行うことができた。次年度も学習内容や効果的な指導に向け取組を継続していきたい。また、専科指導を積極的に取り入れ、中学校のように、複数の教員が関わる指導ができた。</p>	<p>Å</p>	<p>Å</p>
<p>校種間連携の充実が図れたか。</p>	<p>A</p>	<p>幼保小の連携では、5年生児童「総合的な学習」の一環として交流を続けている。また、小中連携については、厚別中学校・小野幌小学校との合同研修会を行ったり、中学校の授業を見学したり、中学校教諭による授業を6年生児童が受けたりした。さらに、CS(コミュニティスクール)への動きも加速し、校種間の連携を深めるよい機会となった。令和7年度はCSへの基盤を築く。</p>	<p>Å</p>	<p>Å</p>
<p>体力向上への取組がしっかりと行っていたか。</p>	<p>B</p>	<p>今年度、体育・保健体育等の授業の充実を図るために、運動特性に添った指導週間の設定や、高学年の専科指導等を実施した。本校の児童の実態を捉えた指導内容の吟味ができた。また、専科指導では、学級担任以外の教師が関わることができ、多角的に子どもの発達を見取ることができた。教師自身の専門性も磨き、より質の高い指導方法の改善につながった。日常的に体を動かすための環境づくりをさらに目指していきたい。</p>	<p>Å</p>	<p>Å</p>

読書活動の充実が図れたか。	B	毎週月・水・金の8:30～8:40の時間を朝読書の時間と位置付けて取り組んでいる。 図書館ボランティアの方が図書室の環境整備、読み聞かせを実施していただいた。 読書を日常化することで、より言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、創造力を豊かにするとともに、知的好奇心をふくらませ、一生涯にわたり学び続けようとする心を培っていききたい。	A	A
学校関係者評価委員会による意見	<ul style="list-style-type: none"> ・読書に興味を持たせる工夫と努力を期待。 ・様々な対応が求められる教育現場において、今年度の重点項目をほぼ十分に達成されたことは高く評価できる。次年度も改善を加えながら取組を進めていくことを期待する。 ・自治的な活動を行うことで、役割や責任、他者との協力の大切さ等、経験でき、子どもたちの心身ともに大きく成長できるチャンスに期待。 ・さらに充実させたいとのことなので、時期はその取組について期待。 			

達成状況はA(十分満足)・B(おおむね満足)・C(努力を要する)・D(一層努力を要する)の4段階

	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		達成状況	成果及び改善の方策	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
研究	運営推進は、見通しをもって行われていたか。	A	新たな研究の初年度ということで、日常の実践に役立つ指導や授業を研究することを目標に課題となるところを思い出しながら、研鑽に努めた。児童の主体的な学習の姿を目指した場の設定、ICTを効果的に活用する授業内容など、職員間による学び合いを大切にしながらOJT、研修会を取り入れ教師の資質向上を目指し、研修を重ねてきた。令和7年度はより焦点を明確にして進めていく。	A	A
	研究主題を意識した授業実践を通して、子どもたちの姿はどうであったか。	A		A	A
学校関係者評価委員会による意見	<ul style="list-style-type: none"> ・教員の資質向上・教員同士の学び合う姿勢は大切。 ・授業に生かせる研鑽に努めてほしい。 ・ 				

状況はA(十分満足)・B(おおむね満足)・C(努力を要する)・D(一層努力を要する)の4段階

	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		達成状況	成果及び改善の方策	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
学校行事	学校行事について、時期や内容・ねらいは適切であったか。	A	昨年度、一つ一つの行事内容を見直したことで、子どもの姿を目標にした行事への取組ができたことは良かった。各行事については、終了後に見直したものをもとに、子どもたちの主体性を生かしたより良い行事になるように年度末評価を行い、次年度も改善を図っていききたい。	A	A
学校関係者評価委員会による意見	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもたち・保護者が楽しみにしているはず。先生方も楽しみながら各行事の改善を進めてほしい。 ・昨今のバス不足は学校も苦勞されている。 ・児童が主体的に取り組む姿に頼もしく感じた。今後も児童の主体性を生かした活動を多く取り入れてほしい。 				

評価項目	自己評価		学校関係者評価	
	達成状況	成果及び改善の方策	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
学級活動	A	月の生活目標を学校朝会や学級指導等で啓発することで、より豊かな学校生活に繋がるよう指導を継続してきた。本校は、全体的に落ち着いた風土があり、今後も効果的な指導を工夫し、児童の主体的な活動に繋げていきたい。	A	A
	A	8:10の玄関解錠を徹底したことで、登校時間を守ることが子どもに定着しつつある。 休み時間の看護体制を徹底し、常に児童の安全を見守ることで、楽しく安全に過ごすことができる環境を作りたい。	A	A
	B	あいさつに関しては教師側も意識して働きかけた。月目標であいさつが重点目標となっている時にはあいさつの意味を指導し、意識して取り組めるようにしている。 子どもたちが意識せずに元気に挨拶したり、安全な廊下歩行をしたり、給食・清掃の当番活動をしっかりとできるようになることを最終目標とし、次年度も継続して学級で指導していきたい。	A	A
学校関係者評価委員による意見	<ul style="list-style-type: none"> ・登校時刻が早くなっている児童の事情があるならば確認が必要。 ・以前のあいさつに戻れるようにしてほしい。 			

成状況はA(十分満足)・B(おおむね満足)・C(努力を要する)・D(一層努力を要する)の4段階

成状況はA(十分満足)・B(おおむね満足)・C(努力を要する)・D(一層努力を要する)の4段階

評価項目	自己評価		学校関係者評価	
	達成状況	成果及び改善の方策	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
児童活動	A	各児童委員会では、児童主体で取り組める場面を意識して設定し、学年の枠を超えた活動とすることができた。 次年度も、児童の豊かな発想が活かされる自治的・自発的な活動を目指していく。	A	A
	A	森のグループ活動では、1～6年生の異学年児童が交流により相互承認の意識を高めることができた。高学年の児童は、創意工夫をして、仲間意識を高めるための活動を計画・運営を実施することができた。そのことで自覚や主体的に考える力が確実に育ってきた。今後も継続していく。	A	A
学校関係者評価委員による意見	<ul style="list-style-type: none"> ・異学年児童の交流は非常に大切。 ・縦割りの活動は、問題解決力が備わり、話を聴く力、話す力が鍛えられるので、ぜひ継続してほしい。 ・すべて学年児童が交流する活動は社会性を育てる取組として高く評価する。 			